



丹後活動プランの 推進に向けて

バブル崩壊といわれ、かつてない長期不況におそわれた時代、それは同時に我が国の経済・社会の構造的変化が急速に進んだ時代であり、今なお私たちの社会はその変化の途上にある。海外市場の動向は直ちに地域経済に影響を与え、人、もの、情報の動きは加速され、またその範囲は飛躍的に拡大し、産業や就業の基礎条件を変え、更に急激な少子高齢化は経済や財政、そして地域の成り立ちをも変えていく強い動因となっている。

変化は摩擦を生み、また可能性を開くが、それらの対応は地域の条件によって当然異なる。しかも多面的な変化が急速に進んでいる現在の我が国においては、戦後作り上げてきた制度や手法、横並び的な発想では、限界があることが明らかになっている。このような時に、時代の流れに翻弄されるのではなく、その中に地歩を固めるには、何よりも自らの立地条件を知るそれぞれの活動体や地域が、主体的に行動していくことが求められている。京都府は、現地・現場主義を掲げ、権限を強化した広域振興局を新たに編成し、いち早くこの課題に取り組んでいる。

宮津市から京丹後市久美浜町に至る京都府丹後広域振興局の活動区域は、その中に様々な特質を持つ各地を包含しつつ、「丹後」という共通の地域認識のもとにある。丹後では、織物業、機械金属業、農林漁業、観光・レクリエーションなど、様々な事業活動が組み合わせられ、生活の基盤を形成している。それらには蓄積された技術とともに、新たに開発され工夫された分野やノウハウがある。そして何よりも、変化に富み、人々を魅了して止まない海と山と集落、これらが一体となって構成する景観、季節の移り変わり、随所に息づく歴史と文化、温泉など丹後という地域自体がもっている魅力がある。

このプランは、丹後のもっているものを伸ばし、拡げ、新たな視点を加え、これを通して、「持てるものを誰もが生かせる」「丹後は今日も活動している」という主体的な地域づくりを提案するものであり、京都府は、民間、公共を問わず、広く丹後の活動主体とともに、このプランを推進し、丹後の新たな時代を共有したいと考えている。



このプランは、丹後で活動している多くの人たちや組織、また丹後に
関心を持っていただいた学識経験者の皆様の御意見・提案をベース
に組み立てたものであり、私たちが今問題と意識していることからスタート
している。従って、変化の激しい現在の状況のもとで、プランの射程は
当面3～5年程度の期間である。

プランは丹後にかかわる主要な分野の今日から明日へ向かう方向を提示
しているが、その背後には集中ディスカッションなどで明らかにされた具
体的な数々のアイデアがある。それらを巻末に紹介しており、多くの皆様に
これらが活用され、あるいはこれらをヒントに更に新しいアイデアが広
がっていくことがプランの原動力となる。

京都府全域を対象とする「新京都府総合計画」及び「^{にん}「人・間中心」の^{げん}」の
京都づくり5つのビジョン（新京都府総合計画実現のための中期ビジョン）
は、このプランのベースであり、三者が一体となって丹後の発展を推進し
ていく。

